

- ①家庭と連携しながら基礎・基本を身に付けさせる家庭学習の確立
- ②様々な場面でうまく自分の思いや考えを表現し伝える力を身に付けさせる授業等の取り組み

学力向上推進員	委員
十川富博	山田匠(校長) 住友久之(教頭) 山野井貴子(研修主任, 進路指導主事) 原田節子(1年主任) 明石浩二(2年主任) 平島徳子(3年主任) 天野和美(人権教育主事) 土井友美(特別支援コーディネーター)

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	①各教科の提出物や家庭での自主学習に毎日取り組み、基礎的・基本的な学力が付いている。 ②継続的に朝の自主学習などを通して基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。	①全国学力テスト・県ステップアップテストで平均正答率を県平均以上にする。また、無解答を減らす。 ②各教科の家庭学習の提出率を100%にする。	小テスト・確認テストで高い目標をもち努力する生徒もいるが、全体の定着には至っていない。今後も内容を充実させ不足している部分を補充しながら継続して全体への浸透をはかる。	①全学年5回程度の朝学習の確認テストを実施した。 ②「めあて」を授業前に提示し授業の目標をもたせた。 ③コラムの視写を月一回実施した。 ④ICTの活用を積極的に取り入れた。	①学習成績が二極化したが高位層は学力を伸ばした。 ②各教科の家庭学習の提出率は約8割であった。 ③自主勉強ノートの提出率は99%である。
課題	習熟度の差が大きく、二極化している。家庭学習の習慣が不十分で学力の定着しない生徒にいかにか基礎的・基本的な力を定着させるか。	①各教科において継続して繰り返し確認テストを行なう。 ②授業の始めに「本時のめあて」を提示して学習内容に意識をもたせ、またICTなどを取り入れて、生徒に興味・関心をもたせ、分かりやすくやる気もてる授業を目ざす。	①各教科の授業だけでなく朝学習の確認テストもする。 ②全職員、授業の始めに「本時のめあて」を提示する。また、ICTを活用する研修・研究授業を行なう。 ③月1回コラムの視写又は週末課題を実施する。	評価	次年度における改善事項
				B	①家庭学習が不十分な生徒へ支援の仕方を工夫する。 ②各教科の理解力につながる基礎・基本となる幅広い語彙力を身に付けさせる工夫をする。 ③目標の持てるような成績表の工夫

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	①様々な事象について深く考え、自分の意見や思いを表現したり、物事を論理的に筋道を立てて考え、的確に判断できる。 ②読解力や表現力を高めるために毎日読書をする習慣を身に付ける。	①授業や集会等で自分の意見を発表できる生徒を70%以上にする。 ②読書記録カードを記入し、毎月1冊以上の本が読める。	各教科・学活での1分間スピーチ・生徒集会等の発表の機会を大切に、筋道をたてて話ができるように継続して助言を行っていく。	①全学級1分間スピーチを毎日一人ずつ実施した。②行事終了時には原稿用紙に感想を書いた。 ③専門委員会が中心となり、読書冊数調べを実施し、読書の啓発をおこなった。④本の読み聞かせ⑤話し合い活動	①自分の意見や思いを表現する力を生徒に付けることができた。 ②1, 2年は読書感想画に取り組んだ。 ③1年生では月平均3冊の読書ができた。
課題	授業・テストなどでは自分の考えや意見に自信がもてず、表現する力や伝える力に欠けるところがあり、自主的に発言するのが苦手な生徒が多い。	①学習活動にアクティブ・ラーニングを取り入れ、自分の意見や思いを表現する場面をつくる。 ②朝の読書の確保と生徒集会や専門委員会など他人の意見を聞いたり意見交換したりする機会を増やす。	①1分間スピーチでまとめる力・表現力を育てる。また、行事ごと感想を書かせ、原稿用紙の9割以上書けるようにする。 ②本の読み始めと終わりを読書記録カードに記録させる。	評価	次年度における改善事項
				B	①自分の思いを原稿用紙に表現できたり、原稿を見ずに発表できることを目指す。 ②自主的に発言できる学習活動の工夫をする。 ③読書の時間を確保し、読書に親しむ読書習慣を付けていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	①家庭学習を計画的・意欲的にしない、学習計画を自主的に立てられない。 ②ワークやテスト問題で、分からない問題に対しても粘り強く考える。 ③授業時間(50分間)を無駄にしない。	①「毎日の足跡」の記録を振り返ることで自主的に時間帯や時間・内容を改善しようとする。 ②自主勉強ノート提出率を100%にする。 ③授業開始1分前には着席し机の上に準備をしている。	「毎日の足跡」の記録を振り返り、計画的に家庭学習ができていない生徒がいる反面、習慣化できていない生徒も多い。保護者と連携し家庭学習の時間を確保していく。また、個々にあった勉強の仕方の助言をしていく。	①「とことん続ける」目標の達成②「毎日の足跡」を毎日記録し、家庭学習の時間を振り返らせた。③毎日の課題(自主勉強・英語・漢字1ページ)に取り組ませた。また、1年では手本となる友達のノートを参考にさせる機会をもてたが2・3年ではもてなかった。④教師はチャイム前に教壇に立ち、早めの授業準備を促した。	①毎日学習時間を記録することで改善を試みる生徒もいる反面、なかなか習慣化できない生徒もいた。②毎日の課題「自主勉強ノート」の提出は、ほぼ全員の生徒が目標を達成できた。また、反応はまだまだが友達のノートを参考にし工夫する生徒もいた。③生徒の1分前着席と授業準備はまだ不十分である。
課題	自主学習に対する取り組み方が分からず、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がおり、授業で学んだ知識・技術が十分にいかせていない。	①家庭学習時間を「毎日の足跡」に記録させ、振り返らせることで、家庭での学習への取り組み方を考えさせる。 ②友達の自主勉強ノートや学習に対する取り組み方を紹介する。 ③教師はチャイム前に教壇に立ち学習規律を守らせる。	①年2回三者面談で「毎日の足跡」をもとに保護者とともに家庭学習について考える。 ②学期に1回手本となる友達の自主勉強ノートを参考に学習の質を高める機会をもつ。 ③生徒会や学級の委員長を中心に学校全体で呼びかけ、学習規律を確立する。	評価	次年度における改善事項
				B	①「毎日の足跡」の振り返りを学習意欲向上のために生かす工夫。例)用紙に毎月の目標を書かせる・先生がコメントを書く・計画的に勉強できるものにする・テスト前に限定して集中させる等) ②先輩やその道のプロの話を取り入れ、具体的な目標をもつきっかけとし、工夫した友達のノート見る機会をもつことで、内発的動機付けを図る。 ③生徒会や学級の委員長を中心に学校全体で呼びかけ、学習規律を確立する。

平成30年度 学力向上ロードマップ

